

金子商会はお客様「三ツセロ」を提案
・在庫コスト セロ
・現場待ち時間 セロ
・現場の不満 セロ

営業時間 祭日も営業中！

月曜日～土曜日 朝八時～夕方五時
祭日 朝八時～十二時
(祭日の配達業務は行っておりません)
日曜日は休業日とさせていただきます。

古典が面白い

高校生の頃、世界史の授業で「四書五経とは以下のことである」と習いました。

「四書」は、『大学』、『中庸』、『論語』、『孟子』。
「五経」は、『易経』(『周易』)、
『書経』(『尚書』)、
『詩経』、『礼』(『儀礼』)、
後『礼記』、『春秋』を指す。

これらをあわせて「四書五経」と言う。儒学や朱子学の根本教典のこと。孔子が言った言葉や弟子が書き記したものに なります。

(経は「お経」の経と同じです。般若心経とか、法華経とか、ありますがその経と同じものだと考える。)

学校のテスト問題でも、

「四書五経の四書とはなにか？」

というような質問で、その内容まで踏み込んだものはなかったと思います。

当時の学校教育方針もあまり踏み込んだところまでは教えていなかったような気がします。

そのときは、先生もそれ以上は教えなかったですし、興味を持たせるような教え方でもなかったように思います。自分も勉強や古典は嫌いでしたから、原書に当たる、つまり実際に論語を読んだりするということはありませんでした。

今思えば、あのころもっと勉強していればよかったなと後悔しております。

そんな四書五経ですが、有名な論語の一節を紹介します。

子曰、
吾十有五而志于学、
三十而立。
四十而不惑、

五十而知天命。
六十而耳順、
七十而从心所欲不踰矩。」

これを現代語に訳すと

先生はおっしゃった、

私は十五歳で学問に志し、

三十歳で自立した。

四十歳で狭い枠に

とらわれないようになり、

五十歳で天命を知った。

六十歳で人の言うことを

逆らわないで聽けるようになり、

七十歳で心の欲するままに

任せても限度を超えなくなった。

となります。

四十歳といえば、「不惑」の年、です

が、自分は惑ってばかりです。孔子が四十歳でそうだったということは、自分の場合、八十年くらいかかるような気がします。自分もそうなるように頑張りたいと思っております。

他にも、

子曰、
由、誨女知之乎。
知之為知之、不知為不知、
是知也。

先生はおっしゃった、

由よ、おまえに知るといふことを

教えてあげようか。

知っていることを

知っていないことを

知らないことを

知らないこととする。

これが知るといふことだ。

というのがあります。

細木数子さんの六星占術や神社にお正月お参りしたときに売ってる、四柱推命などの原型がこの易経になります。

「易者」という言葉をご存知だと思います、今で言う占い師さんのことですね。

「当たるも八卦、当たらぬも八卦」という言葉もありますが、その卦というのも易経から来ています。

それから今年はずみ年ですが、この十二支も易から来ているのです。

易といえば、お亡くなりになりました

が、「安岡正篤」さんが有名です、この方の書籍も面白いしためになると思いま

す。

易といえ、お亡くなりになりました

が、「安岡正篤」さんが有名です、この方の書籍も面白いしためになると思いま

す。

易といえ、お亡くなりになりました

が、「安岡正篤」さんが有名です、この方の書籍も面白いしためになると思いま

す。

易といえ、お亡くなりになりました

が、「安岡正篤」さんが有名です、この方の書籍も面白いしためになると思いま

す。

易といえ、お亡くなりになりました

が、「安岡正篤」さんが有名です、この方の書籍も面白いしためになると思いま

す。

易といえ、お亡くなりになりました

が、「安岡正篤」さんが有名です、この方の書籍も面白いしためになると思いま

す。

易といえ、お亡くなりになりました

が、「安岡正篤」さんが有名です、この方の書籍も面白いしためになると思いま

す。

易といえ、お亡くなりになりました



「人生と陽明学」 安岡正篤(著) ちくま文庫

情報があふれている現代ですが、意外と本質的なことや大切にすべきことは昔と変わらなかつたりします。

最近、様々な古典が見直されています。

「温故知新」も、この四書五経の中に

出てくる一文です。

インターネットなど情報に振り回され

がちな今ときですが、あえて古典を読み

直すのもいいものです。

現在はインターネット革命、情報革命

の真っ最中だと言われています。

人類全体を巻き込む革命として、大き

かったものが過去に二回起こっています。

(狩猟から農耕へ、火の利用)

産業革命

(蒸気機関・羅針盤の

発明と活版印刷)

がそれです。

そして今人類が体験しているのが、三

回目の革命、つまり情報革命です。

情報革命

(パーソナルコンピュータと

インターネット情報網)

パソコンが個人のものとなり、インテ

ネットによって、それぞれが情報発信で

きるようになったこと、これによって、

大きな変化、つまり革命がおきる、世界

は大きく変わっていくということです。

インターネットを使って買物ができ

て便利、ということは、革命でもなん

でもありません。それは側面の一つでし

かないのです。

農業革命によって四大文明が生まれた

ように、産業革命によって、世界地図が

塗り替えられたように、今起きている情

報革命によって、大きく世界が変わら

うとしています。

自分でホームページを作ったり情報発

信をすることで、その意味、捕らえ方が

変わってくると思います。

では、結局これからどうなるのか？

というのですが、

国家や政治の役割・存在が、大きく変

わると思います。政府というものも変化

するでしょう。個人や、小さなグルー

プの影響力がより強くなる世の中になっ

ていくと思います。生活を保障する基盤

としての国家の価値が大幅に低減する

と考えられます。規制が厳しくなってい

るようになっていく。

今感じられるかも知れませんが、今後、

規制はどんどん緩和されていき、世の中

は自分ですべてのことに責任を持てる

人になり、自分では責任を取らず、な

んで他人のせいにする人には、ものすこ

く暮らしていく世の中になっていくと思

います。けれども人間の本質的なところが

変わるわけではないと思います。正直もの

がバカを見ない世の中になるのではない

かと感じていきます。

のんびり日記

2月は、ちょっとした出張がありまして、東京の仕入先へ行ってきました。十年ぶりの東京は大きく変わってしまっていて、東京駅の正面がまったく変わっていました。

以前行ったときは、東京駅の丸の内側から出ると、皇居があり周りに高層ビルがなかったのですが、今は、高層ビルだらけです。

そして、東京が建設ラッシュというのは本場で、新しいビルがどんどん建設されていきました。日本は景気がよくなっているというのには、東京など大都市に住んでいる人には、実感としてあるのだからなと思います。

顧みて下関をはじめとする地方都市は、変化という変化がほとんどありません。そりゃ不景気なのも仕方ないかと思いましたが。



六本木ヒルズや銀座にも足を伸ばしてみました。

もう、なんと申しますか、お金のかけ方が違います、ハンパではありません、カレライスだって三千元もするので、お昼のランチが五千元とかするので。

なんだか経済感覚というか貨幣感覚が違います、地方の痛みなんて、東京に住んでいる人にはわからないのも仕方ないかとも思いました。

東京の八重洲ブックセンターという、地下一階から地上六階まで全部本屋さん、で選び放題で二時間ほどいたのですが、

「本の数が多すぎて選べない。」というところってホントにあるのかなーと思いました。選択肢が多すぎると人は選ぶことができなくなるといわれますが、あれは本当ですね。